

令和6年3月25日

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（避難生活担当） 殿

都道府県名 神奈川県

個別避難計画作成モデル事業（加速化促進事業）最終報告書

令和5年度【内閣府事業】避難行動要支援者に係る個別避難計画の作成の推進において、モデル事業（加速化促進事業）の最終報告書を提出します。

【都道府県情報、事業概要】

都道府県名	神奈川県				
所在地	〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通 1				
担当部局の連絡先 (連絡窓口)	福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課地域福祉グループ 電話 045-210-4750 FAX 045-210-8874 電子メール chiikifukushi-g@pref.kanagawa.lg.jp				
共同で取り組む部局 の連絡先	くらし安全防災局防災部危機管理防災課応急対策グループ 電話 045-210-3430 FAX 045-210-8829 電子メール saitai.okyu@pref.kanagawa.lg.jp				
連携団体	・真鶴町 ・二宮町				
事業概要	㊤都道府県事業	×	㊦共創型事業	○	㊧複合型事業
	個別避難計画未作成自治体をモデルに、計画作成準備、作成、検討、訓練、見直しまでの標準業務手順書（神奈川県版Step）を作成するとともに、県内市町村と共有し、個別避難計画作成を促す。				

※本様式は、令和5年10月に御提出いただいた「様式 個別避難計画作成モデル事業（加速化促進事業）中間報告書」の内容と基本的に同様のものであるため、内容について更新等の必要がない場合、中間報告書と同じ内容をそのまま記載いただいて差し支えない。

※記載内容を補足する資料があれば、必要に応じて添付すること。

※上記項目について、必要に応じ参考資料や補足資料を添付して差し支えない。参考資料や補足資料はPowerPointなど任意の様式で可。（その場合は、当該項目の記入欄に参考資料が添付されていることを記載の上、「参考資料①」と記載するなど、どの資料が当該項目の参考資料であるかわかるようにしておくこと。）

※任意の様式を使用する場合も、用紙サイズはA4判とする。

※【都道府県情報、事業概要】は1ページ以上2ページ以内とすること。

【本モデル事業（加速化促進事業）概要等に関する取組の進捗状況】（神奈川県）

記載項目名	令和5年度末時点の進捗状況
【1】 事業名	個別避難計画作成神奈川フロースタート事業
事業全体の概要	個別避難計画（以下、「計画」という。）未作成自治体をモデルに、計画作成準備、作成、検討、訓練、見直しまでの標準業務手順書（神奈川県版Step）を作成するとともに、県内市町村と共有し、計画作成を促す。
【2】 事業実施体制 庁内の連携体制	<これまでの取組> ・福祉部局及び防災両部局が連携して実施した。 ・真鶴町及び二宮町を管轄する保健福祉事務所保健師が、難病患者の計画作成に参画した。 <現時点の課題> ・市町村によっては、関係各課で計画作成に係る役割分担や連携体制が整っていない。 <対応の方向性> ・県の福祉部局及び防災部局の職員が、引き続き、市町村に赴き伴走支援をする。
【3】 事業実施体制 庁外との連携体制	<これまでの取組> ・真鶴町及び二宮町の2町と共同で事業を実施した。 ・アドバイザーは、川崎市（令和3年度の国モデル事業実施自治体）所在の主任相談支援専門員に依頼した。 <現時点の課題> ・避難支援者の確保策がない。 ・計画作成に関して、福祉専門職団体や会議体の参画が得られていない。 <対応の方向性> ・市町村と共同し、各種団体（自治会、福祉専門職団体・会議体等）に計画作成や避難支援への協力をお願いしていく。
【4】 事業による 成果目標と進捗状況	<成果目標> ・計画作成に係る一連の流れ（神奈川フロー）を作り、標準業務手順書（神奈川県版Step）として県内市町村と共有することにより、計画未作成市町村に対しては、速やかな計画作成を促すとともに作成着手済み市町村に対しても、優先度の高い要配慮者の早期の計画作成を促す。 <進捗状況（現時点の課題）> ・計画作成に係る標準業務手順書（神奈川県版Step）は作成したが、市町村との共有ができていない。 <対応の方向性> ・作成した標準業務手順書（神奈川県版Step）を市町村と共有する。
【5】 事業実施 スケジュール	<これまでの取組> ・補足資料参照 <現時点の課題> ・計画作成に係る標準業務手順書（神奈川県版Step）は作成したが、市町村との共有ができていない。 <対応の方向性> ・作成した標準業務手順書（神奈川県版Step）を市町村と共有する。
【6】 特記事項	

※上記項目について、必要に応じ参考資料や補足資料を添付して差し支えない。参考資料はPowerPointなど

任意の様式で可。(その場合は、当該項目の記入欄に参考資料が添付されていることを記載すること。)

※任意の様式を使用する場合も、用紙サイズはA4判とする。

※【本モデル事業(加速化促進事業)概要等に関する取組の進捗状況】は1ページ以上2ページ以内とすること。

※【2】～【5】については、次の点を記載すること。[これまでに行った取組(検討したことを含む)、現時点における課題、対応の方向性]

【取組の詳細】(神奈川県)

取組名：講習会(個別避難計画とは)【取組①】

記載項目名	内容
【1】 取組の概要	地域住民に対して、計画の概要とその必要性をテーマとした講習会(講演会)を開催する。
【2】 取組のポイント	個別避難計画とは何か、また、その必要性について住民にわかりやすく説明し、計画の理解につなげた。 
【3】令和5年度当初の時点における状況	
課題	個別避難計画について、地域住民への周知が不足していた。
取組の方針・方向性	県と真鶴町及び二宮町で役割を分担し、2町それぞれで講習会(講演会)開催を目指す。
具体的な取組の内容	(2町共通)町が講師を選定し、町の広報紙、講習会チラシ、町ホームページにて案内及び申込受付を行った。 (2町共通)「個別避難計画とは何か」「個別避難計画の必要性」について、有識者(大学教授、大学講師)による講習(講演)を実施した。
【4】困難や工夫	
取組の中で苦労したことや困ったこと	講師のデータベースがなかったため、国や他都道府県に講師ができる方の情報を集めていくことに苦労した。
取組の中で工夫したこと	・広く町民に参加してもらえるよう、町広報紙の活用や、講習会(講演会)のチラシを作成し、参加を促すよう取り組んだ。 ・また、県は近隣市町の担当職員へ講習会(講演会)を周知し、講習会(講演会)の内容を横展開が図れるようにした。
【5】令和5年度末の時点における状況	
自己評価	◎・○・△・▲・－(この取組の進捗に関して該当するものに○を付してください)
取組の結果と成果を得られた理由	<取組の結果> 個別避難計画とは何か、また、その必要性について、住民に一定の理解が進んだ。 <成果の理由> (真鶴町)講習会の中で町民から、要配慮者の避難経路について、空き家のブロック塀があり危険な場所があるとの具体的な話が出たため。 (二宮町)講習会(講演会)アンケート結果(回答者98名)によると、「とても良かった・良かった」が約91%となったため。また、平時における「地域コミュニティの大切さ」「顔の見え

	る関係づくり」の大切さが、アンケート自由記入欄に触れられていたため。
令和5年度末時点の課題	講習会(講演会)の講師ができる人材のデータがない。また、今後、各市町村に講演会(講習会)の取り組みを広げていくにあたっては、講師人材の確保をしていく必要がある。
今後の取組の方向性	テーマ、講師を市町村と共有し、横展開を図る。

取組名：個別避難計画作成に向けた事前調整会議【取組②】

記載項目名	内容
【1】 取組の概要	計画作成に携わる関係者顔合わせの場を設定し、計画作成に係る関係づくりを行った。
【2】 取組のポイント	計画作成に携わる関係者として、計画作成対象者及びそのご家族、自治会役員、民生委員・児童委員、訪問看護師、ケアマネジャー、町社協職員、地域包括支援センター職員、アドバイザー、町保健師、町職員、県保健師、県職員など、様々な人との「顔の見える関係づくり」を行い、関係者間における知識や考え方の統一を図った。
【3】 令和5年度当初の時点における状況	
課題	計画作成に携わる関係者間での知識や考え方のバラつきがあった。
取組の方針・方向性	関係者間で、計画を取り巻く現状、計画作成目的及び取組スケジュール等を共有する。
具体的な取組の内容	(2町共通) 県から、計画とは何か、計画作成の目的、計画作成への取組、作成スケジュール等について説明した。 (2町共通) 町から計画作成実施要領(案)、計画の様式、計画作成及び提供に係る同意書、町の現状について説明した。 (真鶴町) アドバイザーが普段活動している川崎市(令和3年度の国モデル事業実施自治体)の取組について、アドバイザー及び川崎市職員から紹介いただいた。自治会連合会長から、モデルとなる地区の状況について説明した。
【4】 困難や工夫	
取組の中で苦労したことや困ったこと	・多くの関係者に参加いただきたかったため、会議の日程調整に苦労した。 ・福祉専門職の役割について、計画を作成してもらうのか、作成対象者の情報をもらうのが判然としなかった。
取組の中で工夫したこと	・先行取組自治体である川崎市内からアドバイザーを選定し、取組を紹介していただくことで計画作成着手のイメージができるよう工夫した。 ・可能な限り、計画作成対象者及びそのご家族にも事前調整会議に出席いただき、関係者と共通理解が図れるよう、また計画作成の進め方を説明した後、計画作成及び提供に係る同意を頂戴した。
【5】 令和5年度末の時点における状況	
自己評価	◎・○・△・▲・－ (この取組の進捗に関して該当するものに○を付してください)

取組の結果と成果を得られた理由	<取組の結果> 次のステップである個別避難計画作成地域調整会議において、会議の始めから計画の記入に取り組むことができた。 <成果の理由> 事前調整会議で、関係者間の計画に関する知識や考え方などの共通認識が図れていたため。
令和5年度末時点の課題	・事前調整会議を開催する前に、市町村において計画作成の優先度を示せるようにしておき、計画作成対象者の居住自治会(地区)に丁寧に説明しておく必要がある。 ・また、計画作成には、本人に関わる福祉関係者の参加が欠かせないことから、福祉専門職、地域の事業者団体、地域の事業者連絡会の会議体等、福祉関係者へ事前に説明等のアプローチが必要である。
今後の取組の方向性	県は、他の市町村の状況を共有するなど、市町村における計画作成優先度の決定を後押しするとともに、計画作成対象者の居住自治会(地区)及び福祉専門職、地域の事業者団体、事業者連絡会の会議体等、福祉関係者への説明の重要性やポイントについて市町村に周知していく。

取組名：個別避難計画作成地域調整会議【取組③】

記載項目名	内容
【1】 取組の概要	個別避難計画作成地域調整会議を開催し、計画を作成する。
【2】 取組のポイント	計画作成に向けた事前調整会議において、対象者本人を含む関係者間の共通認識を図っておくことで、スムーズな計画作成を目指す。
【3】 令和5年度当初の時点における状況	
課題	
取組の方針・方向性	
具体的な取組の内容	
【4】 困難や工夫	

取組の中で苦労したことや困ったこと	避難支援が困難な要介護度の高い方、重度の障害のある方については、自治会などの地域住民が避難支援に協力することが難しいとの意見が出たことで、福祉ニーズの高い方の避難支援者の確保に苦慮した。
取組の中で工夫したこと	計画作成経験豊富なアドバイザーの視点結果、字の大きさ、避難ルートの地図確認所生活の留意点、ペット避難まで話題が
【5】令和5年度末の時点における状況	
自己評価	◎・○・△・▲・－（この取組）
取組の結果と成果を得られた理由	<取組の結果> 2町合わせて、5件の計画を作成した。（避難訓練） <成果の理由> 2町及び計画作成関係者に、計画の作成に向けた強い思いがあったため、結果として5件の計画（案）が作成できた。
令和5年度末時点の課題	円滑な避難かつ実効性が高い計画の作成においては、アドバイザー等の助言、指導者の役割が大きいが、県内でアドバイザーを担うことができる人材が限られている。
今後の取組の方向性	各市町村で計画作成を進めていく中で、アドバイザーを育成することも促していく。



取組名：避難さんぽ及び個別避難計画の見直し【取組④】

記載項目名	内容
【1】 取組の概要	計画作成対象者を実際に避難支援をする「避難さんぽ（避難訓練）」を実施し、計画見直しを行う。
【2】 取組のポイント	自治会、地区長をはじめとする地域住民が参加して「避難さんぽ（避難訓練）」を実施する中で、避難ルートや避難支援時の課題について確認しつつ、計画見直しを実施することにより、実効性の高い計画の作成を目指す。
【3】令和5年度当初の時点における状況	
課題	「避難訓練」に対する地域住民のイメージは、地域の防災訓練であり、地域住民が参加するには意識面でハードルが高い。
取組の方針・方向性	愛知県岡崎市の取組である「避難さんぽ」の名称を用いて、訓練参加のハードルを下げることで多くの地域住民の参加を目指す。
具体的な取組の内容	（真鶴町 津波想定）ゆっくり歩行ができる高齢者3名が自宅を出発し、坂の上の一般避難所に向けての避難さんぽを実施。避難時は時間計測のためまっすぐ避難所を目指した。帰宅時は、避難経路の危険箇所及び避難所までたどり着くことが難しい場合のチェックポイントや高い建物の確認をした。 （二宮町 風水害想定）リウマチの方の避難訓練を実施。警戒レベル3「高齢者等避難」を想定した避難とした。結果、計画で想定していた自宅近くの一般避難所（県立高校）ではなく、福祉避難所（二宮町保健センター）への直接避難をすることとして計画を見直した。
【4】困難や工夫	

取組の中で苦労したことや困ったこと	訓練開始前、対象者が自宅の外で待機していた。実際の津波（地震）は、自宅の中にいる時に起こり、そこから避難支援者による声かけ等支援が始まり、対象者の避難行動が始まるため、そうした訓練プランの事前伝達が必要である。	
取組の中で工夫したこと	避難所への行きと帰りで、検証すべきポイントを変えた点。 	
【5】令和5年度末の時点における状況		
自己評価	◎・○・△・▲・－（この取組の進捗に関して該当するものに○を付してください）	
取組の結果と成果を得られた理由	＜取組の結果＞ ・避難経路における危険個所及び津波襲来時に緊急避難できる建物の確認ができた。 ・実効性の高い福祉避難所への直接避難に計画を見直しすることができた。 ＜成果の理由＞ 実際に計画作成対象者と関係者が、「避難さんぽ（避難訓練）」に参加したことで、気づくことができたため。	
令和5年度末時点の課題	近所付き合いの薄い都市部においては、近隣住民も交えての「避難さんぽ（避難訓練）」を実現することは難しいと思われる。	
今後の取組の方向性	計画作成、避難さんぽ（避難訓練）及び計画見直しをセットで実施していくことによる効果について、他市町村にも伝え、実施を促していく。	

取組名：業務標準手順書（神奈川県版 Step）の作成及び市町村との共有【取組⑤】

記載項目名	内容
【1】 取組の概要	計画作成に必要な業務標準手順書（神奈川県版Step）を作成し、市町村と共有することで、市町村の計画作成を促す。
【2】 取組のポイント	計画作成に係る、「講習会（講演会）」「計画作成に向けた事前調整」「計画作成」「訓練」「計画見直し」の5つのステップについて2町とモデル事業として共同実施し、そこで表出した課題や工夫を整理し、他市町村が参考とできる手順書を作成する。
【3】令和5年度当初の時点における状況	
課題	計画作成に係る標準的な手順書がなかったため、各市町村で計画作成が進んでいない。
取組の方針・方向性	計画作成に係る業務標準手順書（神奈川県版Step）を作成し、県内市町村と共有する。
具体的な取組の内容	・5つのステップについて2町とモデル事業を共同実施し、各ステップの課題、工夫及びポイントを整理する。 ・計画作成に係る業務標準手順書（神奈川県版Step）を作成する。
【4】困難や工夫	
取組の中で苦労したことや困ったこと	・2町のモデル実施から見てきたことのみしか反映できず、Stepごとの深掘りができなかった。 ・計画作成が目的であったため、業務標準手順という観点での振り返りを行う機会を作ることができなかった。

取組の中で工夫したこと	実績報告という観点だけではなく、計画作成の主体である市町村が参考にできる手順書となるよう作成した。
【5】令和5年度末の時点における状況	
自己評価	◎ ・ ○ ・ △ ・ ▲ ・ — (この取組の進捗に関して該当するものに○を付してください)
取組の結果と成果を得られた理由	<取組の結果及び成果> ・計画作成に係る業務標準手順書（神奈川県版Step）（別紙参照）の作成はできたが、市町村との共有で今後行うため、アウトプットが得られていない。
令和5年度末時点の課題	市町村との共有後、活用状況等を検証する必要がある。
今後の取組の方向性	業務標準手順書（神奈川県版Step）が、計画作成に役立つよう検証するとともに、必要に応じて改訂、更新等を行っていく。

【市町村の取組（連携市町村がある場合）】（神奈川県真鶴町）※「⑤共創型事業」及び「⑥複合型事業」の場合必須

記載項目名	内容
【1】 取組の概要	計画の意義を行政・町民共に理解し、計画作成のスキルを習得することを目指し、計画作成のモデル事業を実施。広く取り組みを周知するキックオフイベント（講習会）を皮切りに、地元自治会の協力が得られ、災害リスクが高い地区を対象にした高齢者世帯と医療的ケアが必要なケースのモデル計画を作成した。事業の仕上げとして、取り組みの成果と課題を共有する報告会を開催し、すべての過程を通じて、町民参加で計画の意義を確認しながら事業を遂行することができた。
【2】 取組のポイント	・要支援者をはじめ、自治会や関係機関等の幅広い参画のもと、公民協働で計画作成の意義や作成方法等を共有することができた。 ・高齢者世帯や医療的ケアが必要な世帯等、多様なケースで計画を作成することができた。 以上から、次年度以降、自助・共助・公助それぞれのアプローチで同時に計画作成を進めていく土壌を耕すことができた。
【3】令和5年度当初の時点における状況	
課題	・計画の意義、必要性について理解できていない。 ・計画の作成方法がわからない。
取組の方針・方向性	・自治会、地域住民、民生委員・児童委員の協力体制の構築 ・何時までにどこまでやるかの目標を定める
具体的な取組の内容	・対象者の方も理解ができていないので、一緒に進め理解を深める ・作成した計画を元に実際歩いて検証 ・避難場所（安全と思われる場所）等の再確認
【4】困難や工夫	
取組の中で苦労したことや困ったこと	モデル対象者が病気やケガにより作業の進捗が変化した。

取組の中で工夫したこと	避難経路にポイントを設定し、目標距離を身近に設定した。
【5】令和5年度末の時点における状況	
自己評価	◎・○・△・▲・－（この取組の進捗に関して該当するものに○を付してください）
取組の結果と成果を得られた理由	高齢者や医療的ケア児等、多様なモデルケースの計画を作成した事で、計画の意義や作成スキルを習得。また、作成した計画を元に歩いて検証した事で、避難ルートにおいて今まで見えていなかった危険個所を確認できたり、代替ルートを考えることにもつながり、作成作業を通して、町民や自治会の意識付けを深めることができた。
令和5年度末時点の課題	・自治会未加入者の把握と対応。 ・支援者の確保→理解、協力体制の難しさ
今後の取組の方向性	・避難行動要支援者名簿の登録強化する事で実態把握。 ・自助(要支援者自身)・共助(自治会等の協働)・公助(行政主導)での計画作成を同時に推進していく。

【市町村の取組（連携市町村がある場合）】（神奈川県二宮町）※「⑩共創型事業」及び「⑨複合型事業」の場合必須

記載項目名	内容
【1】取組の概要	災害対策基本法の改正に伴い努力義務化された災害時の個別避難計画の作成に向けて、庁内検討会を経て、対象者の優先度や支援者の確保などの考え方を地域関係者や福祉関係者に説明し、令和5年度は試行期間として町が主体的に計画作成を実施
【2】取組のポイント	・計画作成にあたり優先度の高い難病患者の方やハザードエリアである土砂災害警戒区域など課題の多い方から抽出し計画を作成した。 ・福祉関係者への説明や防災講演会での住民への説明など必要性の周知に努めた。
【3】令和5年度当初の時点における状況	
課題	・計画作成に向けた内容の理解や必要性の周知 ・地域関係者や福祉関係者等への説明や連携、支援者の確保等
取組の方針・方向性	・庁内検討会で対象者や優先度の把握、決定 ・関係者への定期的な概要、方向性の説明を実施
具体的な取組の内容	・広報や地域役員会議、民生委員会議、地域自主防災訓練等での説明実施（複数回） ・福祉関係者等の会議や研修会に参加しての計画作成に向けた協力依頼実施（複数回）
【4】困難や工夫	
取組の中で苦労したことや困ったこと	・計画作成に向けては地域などへの協力要請を当初行ったが、活動に対する不安や支援者の決め方など課題に対する意見が多かった。 ・対象者との調整、関係者の連携や連絡調整など、一人の対象者に時間を要する。
取組の中で工夫したこと	・対象者への訪問には男女ペアで行うようにした。 ・介護認定者等は、訪問前にケアマネジャー等と連携し、スムーズに調整出来るように心掛けた。 ・実際の避難訓練が行える方には支援者の含め訓練を実施するようにした。
【5】令和5年度末の時点における状況	

自己評価	◎・○・△・▲・－（この取組の進捗に関して該当するものに○を付してください）
取組の結果と成果を得られた理由	今年度は、時間はかかるが、一人ひとり必要な方の計画を、試行期間として町が主体的に作成した。関係者にも協力いただき数件の計画を作成したが、関わった地域関係者、福祉関係者には調整会議等を通じて理解促進が図られ、今後の協力についても前向きな意見をいただいたので、今年度の取組を他の関係者にもしっかりと伝え、協力をいただきながら更に必要な方の計画作成を進めていきたいと考えている。
令和5年度末時点の課題	・町主体で行ってきた計画作成を地域、関係者主体で進めていく方向性の確立。 ・積極的に行ってきた福祉関係者への説明や情報共有を計画作成に活かしていくこと。 ・計画作成が必要な要配慮者の優先度、絞り込みを更に進める。
今後の取組の方向性	・令和5年度取組、経過などを地域関係者、福祉関係者などに伝え、町と連携して必要な方の計画作成を行えるような環境づくりをしていく。 ・住民向けの講演会の成果として、自発的に取り組む意向を示す地域で、モデル事業の実施を検討する。

【関連する施策】

・福祉避難所市町村サポートチーム

【研修会や説明会等の講師等の一覧】

氏 名	所 属・役 職	研修会や説明会等	
		名 称	概 要
川上富雄	駒沢大学文学部社会学科・教授	令和5年度二宮町防災講演会	災害時における個別避難計画の必要性についての講演
下田栄次	湘南医療大学リハビリテーション学科（理学療法専攻）・講師	個別避難計画作成モデル事業講習会	

【個別避難計画に係る取組に参画している関係者の一覧】

区分	概要（参加者等）		市町村名※	備考（巻き込む工夫など）
計画作成の中心的役割を担った関係者	自治会		該当市町村多数	事前説明会の実施
	民生委員・児童委員		該当市町村多数	事前説明会の実施
	保健師		二宮町	事前相談の実施
	看護師		二宮町	事前説明会の実施
	ケアマネジャー		二宮町、茅ヶ崎市、秦野市	事前説明会の実施
	その他	相談支援専門員	川崎市	
計画作成に参画した関係者	ケアマネジャー		真鶴町、二宮町	事前説明会の実施
	民生委員・児童委員		真鶴町、二宮町	事前説明会の実施
	自治会		真鶴町、二宮町	事前説明会の実施

	保健師		真鶴町、二宮町	事前相談の実施
	その他	相談支援専門員	川崎市	
避難支援等実施者	近隣の住民		真鶴町	事前相談の実施
	その他	家族	川崎市、二宮町	
避難支援等関係者	消防職員		二宮町	
地域調整会議に出席した関係者	自治会連合会長、民生委員・児童委員、ケアマネジャー、アドバイザー、別自治体職員、町保健師、町職員、県保健師、県職員		真鶴町	
	地区会長、民生委員・児童委員、訪問看護師、ケアマネジャー、町長、町職員、県保健師、県職員		二宮町	
避難訓練への参加者、参加機関や団体等	自治会連合会長、民生委員・児童委員、ケアマネジャー、アドバイザー、川崎市職員、町職員、県保健師、県職員		真鶴町	
	地区会長、民生委員・児童委員、町長、消防職員、町職員、県保健師、県職員		二宮町	
その他				

※ 該当する管内市町村を記載すること。なお、把握している範囲内で差し支えない。(管内市町村が多数該当する場合、「該当市町村多数」等の記載でも差し支えない。)

【人員の確保状況】

個別避難計画の作成支援に関する人員体制			
部署名：福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課	専任（人）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（人）	常勤：1	会計年度任用職員：
部署名：くらし安全防災局防災部危機管理防災課	専任（人）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（人）	常勤：1	会計年度任用職員：
部署名：	専任（人）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（人）	常勤：	会計年度任用職員：

【予算の確保状況】

個別避難計画の作成支援に関する予算	
令和4年度決算額	(うち、市町村への補助金等に関するもの：)
令和5年度決算見込額	(うち、市町村への補助金等に関するもの：)

令和6年度当初予算額	(うち、市町村への補助金等に関するもの：)
特に予算措置なし	✓
(参考) 避難行動要支援者数(人)	453,820

【個別避難計画の周知、普及・啓発等のために作成したもの】

媒体の種別	実施内容の種別	概要（タイトル、URLなど）
紙媒体	新聞広告	
	広報誌	広報真鶴、広報にのみや
	チラシ	令和5年度二宮町防災講演会
	ポスター	
	町内会や自治会などへの回覧物	
	リーフレット	
	その他	
電子媒体	動画	
	広報誌	
	SNS（X（旧Twitter）、Facebook、Instagram、YouTubeなど）	
	ウェブサイト	
	広報番組（テレビ、ラジオ、CATV、コミュニティFMなど）	
	その他	

【個別避難計画作成の取組のイメージをつかむのに役立った報道や講演などの動画や資料など】

- ・NHK みんなで助かるために（インクルーシブ防災）の動画
- ・静岡県 個別避難計画作成モデル事業 2021年度報告書

【参考にした他市町村、都道府県、関係団体等の取組】

- ・愛知県岡崎市 ひなんさんぽ
- ・大分県 避難支援者確保に係る取組（地元企業・青年会等）へアプローチ

【管内で活用されている、取組の支援^{注1)}に活用した仕組み^{注2)}と活用内容】

特になし

注1) 支援を受けるのは都道府県、市町村のどちらでもよい。

注2) 地方財政措置(普通交付税)、モデル事業・ピアサポート(内閣府(防災担当))を除く。各省の補助金、財団や宝くじ等の助成金などを想定。

【管内で取り組まれている、既存の制度や取組を活用した個別避難計画づくり】

- ・ ケース会議の活用
- ・ 総合防災訓練の項目として避難支援関係者会議を実施

地域ケア会議、地域包括支援センター、自立支援協議会、マイ・タイムライン、地区防災計画など、既存の制度や取組を活用した事例の内容を記載すること。